令和４年度　自己評価書

学校名	和歌山市立鳴滝小学校
校長氏名	吉森　裕巳子
作成日	令和　５年　２月　１６日

1　教育目標

豊かな感性をもって、たくましく生きる児童の育成

2　本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○基礎・基本の確かな定着 ◎考えをもち学び合う授業の推進 ○家庭学習の推進 ○読書活動の推進	◎道徳・人権教育の推進 ◎いじめの未然防止、早期発見 ○仲間づくりの推進	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成	◎学校・家庭・地域との連携充実 ○幼保小の接続、小中連携の推進 ○地域の資源活用の推進
重点目標【P】	○基礎学力の充実と向上を図る。 ○児童一人ひとりが、学習課題をもち、自分の考えを発表できる授業づくりをめざす。 ○先行資料だけでなく、先進校の研究発表会に参加し研修を深めたり、積極的に講師の招へいを行ったりする。	○相手の気持ちを理解でき、思いやりのある心を持てるようにする。 ○正しいと思うことに進んで取り組み、最後まで粘り強くやり抜く力を育てる。	○体力向上の推進 ○基本的生活習慣の確立 ○生命・安全の確保と自分を守る力の習得	○保護者・地域住民から信頼される魅力ある学校づくりに努める。 ・地域に根ざした学校をめざす。 ・学校教育活動等について情報を発信して学校・育友会・地域行事を通して、相互の距離感を短くし、「子ども」を中心に据えた開かれた学校つくりに取り組む。
取組の状況【D】	○、課題に取り組む中で、個人思考の時間を必ず取り自分の考えをノートに書くことに力を入れた。その後意見を交流し合い学びを深めた後、まとめをノートに書かせた。○今年度、現職教育の時間、既に複式学級の研究をしている先進校を視察したり、講師を招聘したりし授業改善に取り組んだ。○「鳴滝タイム」や「学力フォローアップタイム」の時間を設定し、基礎学力の向上に努めた。○GIGAスクール構想のもと児童全員がタブレット用い学び合いの授業に大いに活用できた。○「読書タイム」「家読」だけでなく、休憩時間や	○掃除やあいさつ、はきものそろえなど基本的な生活習慣の定着を進めた。○今年度は、地域にある消防団や、パン屋、ラーメン店、カフェ、スーパーなどに出向き様々な体験活動を実施することができた。また、行くだけでなく本校にも来ていただいて出前授業をしていただいた。 ○SDGsの取り組みの中で食品ロスについて継続的な取組を行った。 ○シニアの方々と交流を通して、児童の豊かな心の醸成を図った。 ○たて割り活動で異年齢交流を進め、児童の豊かな心を養った。	○「早寝、早起き、朝ごはん」の推進を行った ○生活調べを実施して基本的生活習慣の定着を図った。 ○避難訓練や交通安全教室を実施して安全への学習を深めた。 ○わかきん先生をお呼びして、地域の方も一緒に体力向上を行った。	○地域へ「学校だより」を配布して積極的に情報発信に努める。 ○民生児童委員との懇談会をもち情報交換を進めることにより生活指導の充実を図る。 ○地域と共催の行事に積極的に参加し、開かれた学校になるように努める。 ○地域の人材を積極的に活用する。
取組の成果と課題（評価結果【C】）	○学力テストの結果は、算数科、国語科とも、全国や和歌山県や市より正答率が高くなっている。 ○「昼学」「読書タイム」「学力フォローアップタイム」の実施が定着し学力の向上に寄与している。 ○家庭での自学自習は、定着だけでなく未習事項を含む探究的な家庭学習も必要としたい（自主学習）。	○「地域シニアボランティア」の方との交流（野菜つくりや花植えなど）を通して児童の豊かな心を養うことができた。 ○ファミリー活動（そうじ、あそび、長縄大会、持久走、等）で異年齢交流を積極的に行うことができた。 ○これからも多くの体験活動を実施して児童の豊かな心を醸成する機会を増やしたい。	○毎日健康観察カードを保護者に記入してもらい、「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨しているが、遅刻や朝ごはんを食べてこない児童が少なからずいる。 ○「火災」「地震・津波」「不審者」それぞれの避難訓練を実施して具体的に身を守ることを重点に学習した。 ○様々な場所、様々な時間帯において子どもたちと鳴滝地域の方々が安全で健康的な生活が送れるための機会を持つことの重要性を感じている。	○「学校だより」を地域の自治会長等を通じ配布した。 ○民生児童委員との懇談会をもち、様々な情報交換を行った。 ○「夏まつり」「防災教室」等に積極的に参加したいと考えるがコロナ感染拡大で今年度実施できなかった。 ○「野菜植え」「花植え」「子どもセンター」「読み聞かせ」等地域の方々の協力を得た。
次年度に向けての改善方法【A】	○「昼学」「学力フォローアップタイム」の検証をし、児童個人のファイルを作ってきたが、来年度も目標設定の仕方や年間計画に生かしていきたい。 ○学力テストの分析を細やかにし、個に対応していきたいと考えている。	○さらに多くの体験学習を実施して、児童の豊かな心を醸成する。 ○ファミリー活動で異年齢の縦割り活動を充実させていく。 ○地域に根ざした体験活動を考えたい。	○健康観察カードを継続し、家庭での協力を得られるようにする。 ○訓練を様々な場所、様々な時間帯において安全が確保できるように、工夫して実施する。	○「学校だより」の配布を続ける。 ○学校運営協議委員との懇談会を継続する。 ○民生児童委員との懇談会を継続する。 ○多くの地域行事に積極的に参加する。 ○さらに多くの地域の方々の協力を得る機会を増やす。

3　その他の課題

学校は楽しい学習の場であり、児童一人ひとりが生き生きと活動できなければならないと考えます。地域にとっても心地よい居場所として学校はどうあるべきか、小規模校となり人的・物的に限りがある中でありますが、できる限り実現できるよう努めていきたいと思います。そのために地域や関係諸機関と連携を図り、時には積極的に協力を得ることが重要と考えます。今後も、多くの方々の力を結集して学校教育の充実を図りたいと考えます。